

# 緒 論

## [1] 環境心理（行動）学（Environment-Behavior Study）とはなにか？

：人間の心理・行動についての科学的理解に基づく環境デザイン

⇒環境とは？

人間（動物）の存在が前提 ⇒純粋な物質世界とは異なる

異なるスケールの空間（インテリアから都市・地域）⇒職能分化

時間的ファクター

⇒時間のレンジ：瞬時・季節・一生

時間・空間のヒエラルキー⇒入れ子構造

⇒心理・行動とは？

分離できない感覚・知覚・認知・情緒・行為の総体

⇒環境デザインとは？

人間が環境に手を加えて変化させる行為のすべて

（環境コントロール意識の重要性⇒施設的セティング）

## ●他の心理学と環境心理学との関係

- 臨床心理学
- 実験心理学
- ＊
- 社会心理学
- 認知心理学
- 発達心理学
- 老年心理学
- 進化心理学

## ●周辺領域と環境心理学

- インテリアデザイン
- 建築学
- 景観工学・造園学
- 都市計画学
- 社会学
- 地理学
- 文化人類学

## [2] 環境心理学の沿革と発展

1959 年：K.リンチ：都市のイメージ（Kevin Lynch: The Image of The City）

1966 年：E.ホール：かくれた次元（E. T. Hall: The Hidden Dimension）

1969 年：EBS 元年

EDRA 第1回会議（Environment Design Research Association）

Design Methods Group（C.アレキサンダー）

IAPC 第1回会議（International Architectural Psychology Conference）

→ IAPS

学術誌「Environment and Behavior」創刊

1972 年：日本建築学会／環境工学／生理心理分科会 →環境心理生理小委員会

D. Canter、乾正雄 編「環境心理とは何か」

1982 年：人間・環境学会（MERA）設立 → 国際会議「MERA97」

1996 年：日本建築学会／建築計画／環境行動研究小委員会、空間研究小委員会

1998 年：「人間環境学」刊行／日本建築学会／環境心理生理小委員会編

### [3] 環境心理行動学(EBS)を何故まなぶのか

- ・ 建築行為のギャンブル性：
  - a. 使用者の行動に対する無知：仮説（設計意図）の誤り  
.....アイゴー団地の失敗  
環境設計者（建築家）と使用者との乖離  
環境デザインの歴史的変遷  
(primitive - vernacular - high-style: Rapoport)  
定型的理解の危険性（明示的機能と潜在的意味）
  - b. 設計意図が実現できない  
未熟な予測技量 → 知覚・認知の理解  
人工環境の複雑化、巨大化、特殊化（←→自然の生態系）
- ・ 正しいコンセプトの理解  
設計意図の明確化とコミュニケーションのための人間行動に関する概念の理解

### [4] 環境デザインの目的

行動と環境の FITNESS (FIT / MISFIT : C. Alexander)

- 物理的（しつらえ） — 広さ、遮蔽 (shelter)、安定性、可変性
- 機能的（はたらき） — 利便性、使いやすさ
- 心理・行動的
  - ・ 認知的 — 適切な行動の clue（かぎ）：  
e.g. 上座下座、Way-finding
  - ・ 情緒的 — 雰囲気、美しさ、（視覚以外も）
  - ・ 社会的 — 人対人の交流の促進と抑制、防犯性

### [5] 環境デザインと環境心理研究

環境デザインのサイクルと研究がもたらす情報の関係

(Zeisel, 1981)

- (1) デザインプロセスにおける役割
- (2) 建設プロジェクトのサイクルにおける関わり

## アフォーダンス

アフォーダンスは、英語で「提供する」といった意味の動詞アフォード (afford) から、心理学者ジェームス.J.ギブソンによって作られた造語である。それは、環境やその中の事物が動物の特定の行動を可能にするために (提供すべく) 備えている特性である。例えば、硬くて水平な地面は人が立ったり歩いたりする行動を可能にするアフォーダンスを備えている。しかし他の動物、例えば魚などの水生動物の移動を地面はアフォードしない。それをアフォードするのは適度な流動性と粘性のある水である。このように、ある環境が備えているアフォーダンスは動物の種類によって、また同種であっても個体の能力によって異なる。

動物がある環境でうまく生き延びるためには、必要な行動を支えてくれる環境のアフォーダンスを種々の刺激情報をもとに読み取る必要がある。これはあまり意識されることなく瞬時に行われている場合が多いため、自覚されることが少ない。例えば、曲がりくねった廊下を行くとき、左右への屈曲に特に注意を払わなくても進むことができる。このとき、移動する視点から見た環境構成面からの反射光のパターンが変化する。その変化の仕方はでたらめではなく、自分自身と周囲の壁面との空間的關係によって定まる法則性がある。このギブソンが「不変項」(invariant)と呼んだ情報を受け取ることによって、自身が通過することをアフォードする空間が知覚される。

こういった空間知覚のほか、物品についてもアフォーダンスの概念が適用される。物を人が片手で持ち運ぶことに対するアフォーダンスはその大きさや形状によって異なる。あまり大きなものはそのままでは握れない。しかし、取っ手を付ければ片手で持ち運ぶことのアフォーダンスが備わることになる。ドアのノブは、その形状によってドアを開けるために必要な行動が異なる。右下の写真の左端に示す握り玉は、回して開けるのに一定の握力があるが、中央のレバーハンドルは場合によっては手を使わなくても開けることができる。つまりアフォーダンスが異なるのである。われわれは物の形状によってそのアフォーダンスを読み取って行動するが、形状が示唆するアフォーダンスと実際に備えている可能な行動が違う場合がある。写真の右端の取っ手を引き戸に使ったりすると、多くの人が手前に引いたり押ししたりしようとするだろう。

生態学では、ある動物の生存に適した生息環境のあり方をニッチと呼ぶが、ギブソンはそれを無数のアフォーダンスのセットと考えた。人間は環境に手を加えて自らの行動をアフォードするように改変して、自らの環境のニッチを形成してきた。この意味で、環境デザインはさまざまな人間のための、さまざまな行動を支える豊かなアフォーダンスを創造する行為であるとも言える。

【参考文献】ギブソン, J.J.: 生態学的視覚論、古崎敬ほか訳、サイエンス社、1985。

## 環境に対するコントロール意識 (Control Theory)

不快な環境に対するストレスは以下の3種の「コントロール意識 (perceived control)」で軽減される

・行動的コントロール: behavioral control

環境の状態を望むならいつでも変えられる手段をもっている

e.g.: (建設工事のトラブルについての苦情連絡先を知っている)

・認知的コントロール: cognitive control

環境の状態の原因やそれが継続する時間などを知っている

e.g.: (道路工事などの目的や継続期間を事前に知らされている)

・決定コントロール: decisional control

いくつかの選択肢から自ら現在の環境状態になる選択をした

e.g.: (住民の合意の上で清掃工場の建設を決める)